熊本の高校生の皆さんへ

今、日本をはじめ世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、人類を苦しめています。戦後最大の危機と言っても過言ではなく、経済・医療・教育そしてスポーツ面や文化面等に多大な影響をもたらし、人々の行動や生活様式まで変えてしまいました。過去の歴史をみても人間と疫病の闘いは、幾度も繰り返されており、今後も第2波が来ることも予想されています。

熊本県においては、大切なみなさんとご家族を守るため、今年3月から3か月間、臨時休校をお願いしました。高校生の皆さんも長い自粛生活が続く中で、卒業式や入学式など学年の節目となる大切な行事が予定通りに実施されなかったり、年度末や年度初めの勉強が思い通りにならなかったりなど、残念な思いをされた方もおられたことと思います。

特に、多くの高校3年生にとってスポーツと文化活動の集大成となる県高校総体・総文祭が中止となりました。高校だけでなく中学校あるいは小学校から積み上げてきた努力の成果を発揮する機会が奪われたことはとても残念であり、胸が痛みます。

しかし、過ぎ去ったことを変えることは誰にもできず、私たちがこれからの未来をどう築いていくかが重要です。

私は少年時代にたくさんの本を読みました。小学生の時に読んだ本の中に「プルターク英雄伝」があり、その時にカエサルのようなすばらしい政治家になりたいと思いました。カエサルは、元老院のポンペイウスに背き、軍隊を率いてルビコン川を渡るという暴挙に出る時、「賽(さい)は投げられた」と言って川を渡ったと伝えられています。「賽(さい)は投げられた」の「賽(さい)」とはサイコロのことで、一度投げてしまったサイコロは元に戻せないことから、「後戻りはできない。最後までやるしかない。」との意味だとされています。

また、私は、よく県職員の皆さんに挑戦することの大切さを説く際、度々「皿を割れ」という言葉を用います。これは進んで皿を洗えば割れることもある、割れてもいいから、恐れず新しい目標に挑戦しましょうというものです。

いよいよ、本日から本格的に学校が再開されました。

今の自分にできることは何か、やるべきことは何かをしっかりと見定めるとともに、失敗や回り道も貴重な経験と受け止め、夢に向かってチャレンジしてください。

皆さんのこれからの頑張りに心からエールを送り、私からのメッセージといたします。頑張れ！熊本県の高校生たち！

令和2年(2020年)6月1日

熊本県知事 蒲 島 郁 夫